

## 平成 29 年度 第 2 回 リハビリ部会研修レポート

記載者：老人保健施設 成幸苑 作業療法士 綿貫祐一

<日時>平成 30 年 2 月 11 日 (日) 10:00~15:00

<会場>山口県セミナーパーク 大研修室

<テーマ>平成 30 年度医療・介護同時改定

リハマネ加算と通所リハビリの今後について

<内容>

10:05~10:10 事前アンケート集計結果報告

10:10~12:00 講義・質疑応答

平成 30 年度医療・介護同時改定 リハマネ加算と通所リハビリの今後について

講師：宮内順子先生 (介護老人保健施設べあれんと 作業療法士)

13:00~15:00 グループワーク

平成 30 年度の改定を受け、改定に向けての準備、リハマネ加算への取り組み、通所リハビリは今後何が求められているのか、各施設ではどのように取り組んでいるのかについて理解を深めるため、今回の研修を開催した。

まず宮内先生の所属先であるべあれんとでの取り組みを紹介して頂いた。実際に各加算に対し、どのような目的・目標で、どのようなアプローチをしているのか明確に提示され、加算を算定していない施設は各加算に対し具体的なイメージを持つことができ、算定している施設においても自身が現在実施している訓練内容を見直すことができる機会となった。

次にリハマネⅡの算定率をあげるための 3 つの工夫として「わかりやすく」「動きやすく」「つながりやすく」を掲げられた。中でも書類業務の各職種による役割分担や医師が動きやすい環境作りを行うことで、他職種との連携を密にし、施設全体で算定していくという意思の統一を図ることが重要であること、そして個別リハのあり方の見直し、自主トレの提供、参加型学習会や自主学习室の活用により、セラピストやご利用者自身が自立支援に向けて意識できる仕組みづくりが必要であることを認識できた。

また介護報酬改定の詳細を確認した。宮内先生の見解を交えながら改定事項を確認していくことで、より改定について熟知することができた。改定について不安を抱える参加者は多く、積極的な質疑応答が行われた。

午後からのグループワークでは「4 月の介護報酬改定に向けて今から取り組めること」をテーマに各施設での課題を抽出し、それらについて解決策をグループで話し合った。大判用紙にポスティングやグルーピングを行うことで各施設において共有できる悩みや、自身では挙げることのできなかつた課題を見出すことができ、また挙げられた課題に対し解決策を話し合うことで各施設での取り組み方や今後すべきことを改めて考えることができた。

今回の研修を通し、改定やリハマネ加算について思案することができたのは勿論のことだが、自身の行っているリハビリ・マネジメントが本当に活動や参加に繋がっているのか、自立支援に向けて考えられているのか、今一度セラピスト自身に問う良いきっかけとなったのではないかと考える。

